

## 富士登山競走への計測チップシステムの導入

元大会事務局 天野孔文

私と富士登山競走の出会いは、公務員 2 年目の 1982 (S57) 年に教育委員会社会体育課 (当時) に配置換えされたことに始まり、以後、第 35~37 回大会の運営に携わりました。私事になりますが、学生時代に陸上競技部に所属していたことから、異動した年に市の陸上競技協会に入会しました。

この当時は、パソコンや携帯電話はもちろんワープロさえなく、書類や文書は手書きが基本で、ナンバーカードは教育委員会職員総出で白い布をハサミで切って、一枚一枚大判のスタンプを押していくなど、すべてが手作りの大会でした。

特に決審・計時処理は、前日に市陸上競技協会審判員や陸上自衛隊北富士駐屯地の通信隊員に登っていただき、着順は決審係が、タイムは計時係が別々に記載し、それを自衛隊通信隊員に渡し、隊員は無線機で着順のナンバーカード、タイムを市役所に向け送信していただいていた。「ヒト・マル・フタ・フタ (1022)」など自衛隊独特の数字の読み方が記憶に残っています。

市役所 3 階の特設通信所では、山頂ゴールからの送信内容を改めて数字に書き起こし、出来上がった着順表・タイム表は、電算係職員が汎用コンピューターに入力するという非常に手間暇のかかる作業の末、ようやく記録表が出来上がるのであります。早い時間でゴールした入賞者などは、いち早く記録表を作成し賞状の揮毫などを終え表彰式となりますが、遅くゴールをした選手の記録は当日中の処理ができずに翌日になってしまいました。選手側から見れば、ゴールしたことは間違いないのだが、「自分は何位でタイムはどうだったのか？」がわからないまま帰路につかねばならなかったのであります。

当時はまだまだ携帯電話が普及途上で富士山頂は当然に通信圏外であり、昨今のようには誰もがスマホで簡単に写真やデータをやり取りできる通信状況ではなく、加えて市役所と富士山頂という距離的な問題などを考えると最善の方法であったと思われるが、選手にしてみればさぞかし不満だったことでしょう。

十数年後 1997 (H9) 年の定期人事異動で社会体育課係長として再び富士登山競走を担当することになりました。大会の準備が進む中、審判業務を担っている市陸上競技協会の宮下清光理事長 (元会長代行) から、「富士登山競走にもシューズに取り付けるランナーズチップによる記録処理方法を取り入れたらどうか？」との提案がありました。

市陸協審判員であった私とランナーズ社とは、火祭りロードレスや山中湖ロードレース、日刊スポーツ河口湖マラソンなどを通して記録業務等を行ってきたことから、個人的には新たな記録計測システムを導入したいと考えていました。しかしながら、市側の予算措置のほか、チップによる計測はノート PC や計測マット、精密機器などが富士山頂の厳しい気候や溶岩中の磁気等の過酷な条件に対応できるか、携帯電話の通話エリア外の山頂から計測したデータをどうやって市役所に送るのかといった課題があり、第 50 回大会 (H9) では導入を断念せざるを得ませんでした。

それでも次年度の導入に向け機材等の運用試験を行うべく、ランナーズ社の金城氏 (現アールビーズ執行役員) や担当であった伊藤氏などの協力を得て、山頂へ向かう一歩の最終運航日に須走口登山道の基地から必要な機材を積みこみ、ブルドーザーで山頂へ向かった。山頂では山小屋「江戸屋」さんの協力を得て、機材のテストを行い、その日のうちに再びブルに積んで下山しました。後日、ランナーズさんから「結

果は良好でした。」との報告を受けました。もう一つの課題であったデータの送信方法については、NTT ドコモ山梨さんが所有する衛星携帯電話を借り受けることでなんとか目途が立ちました。

1998（H10）年第51回大会からは、ランナーズチップによる記録計測により、山頂ゴール・五合目ゴールの着順及びタイムは、瞬時に市役所大会本部に届き、各選手が市役所に戻った際には、結果を確認することができた。加えて、スタート、馬返し、五合目、八合目の各チェックポイントでの通過順位・タイムを計測することで、不正の防止もすることができた。後日、この各チェックポイントの通過状況とコール結果を記録証として送ったところ、こちらも非常に好評でした。

加えて、これまで参加申込は、参加費を現金書留で郵送しなければならなかったが、ランナーズヘイターネットを経由して申し込めるようになり、利便性が格段に向上した。それらの結果、初めて全国ランニング大会100選に名を連ねることができ、大会の近代化への第一歩となりました。

以来、多くの担当者、関係者の皆様の努力により、富士登山競走は名実ともに日本一過酷な山岳レースとして成長してきました。今後は、この大会が全国のランナー皆さまの目標として末永く続くことを願っています。